第２期ふるさと秋田元気創造プラン

平成２６年３月

秋　　田　　県

「日本に貢献する秋田、自立する秋田」を目指して

この度、平成２６年度から向こう４年間を計画期間とする「第２期ふるさと秋田元気創造プラン」を取りまとめました。

このプランは、これまで取り組んできた成果を土台にしつつ、新たな視点を加えながら、本県が直面している課題の克服に向け積極果敢にチャレンジするための県政運営の指針であり、これを基本としながら「ふるさと秋田」の更なる発展に取り組んでまいります。

さて、時代の潮流をみると、ＩＣＴの急速な発展や規制緩和、自由貿易の拡大等に伴いグローバル化が加速的に進展し、国際競争のみならず地域間、ひいては企業間など、あらゆる分野において競争が激化しております。

一方、我が国は、本格的な人口減少社会への突入等により、右肩上がりの経済成長が期待できない中で、国際社会における地位の低下、資源やエネルギー面での制約など、これまでにない厳しい現状に直面しています。

本県においては、とりわけ人口減少や少子高齢化の進行が著しく、それに伴う経済規模の縮小や地域活力の低下、米を中心とする農業情勢の急激な変化など、これまでの延長線上での取組だけでは対応できず、相当な覚悟を持って、新たな視点で取り組んでいかなければ道は開かれない状況にあります。

しかし、古今東西、人間の歴史は試練の歴史でもあり、我々の先人は、幾多の困難を乗り越えながら歴史を積み重ねてきたといっても過言ではありません。

厳しい状況であればこそ、現状を悲観的に捉えることなく、しっかりとした時代認識の下、状況を的確に分析して何事にも積極果敢に挑戦することが大切であり、今まさに、県民一人ひとりがいたずらに他所を頼らず、「自立」という気概を持って自らの力で未来を切り開き、様々な課題を解決しながら、より良い秋田を築き上げていくという確かな姿勢が求められております。

かつて秋田は、食料や木材、鉱物資源、水力発電など、日本を支える多くの資源を供給するとともに、豊かな自然や歴史の中で育まれた文化・芸能等を通じて、我が国の発展や国民生活の向上に大きく貢献してまいりました。

時代は移り変わりましたが、現在でも本県は、これまで蓄積してきた技術や人材、自然エネルギーなど多様なエネルギー資源、清浄で広大な空間を持つ自然や純粋な形で営々と引き継がれてきた地域文化など、多様で貴重なハード・ソフトの資源を有しております。

今の日本をみると、秋田の持つこうした有形無形の豊富な資源が必要とされる時代に入ってお

り、これらを現代の社会経済環境に合った形で最大限活用することが、今後の秋田の活性化につながり、ひいては日本にとってなくてはならない秋田として、再び存在意義を発揮できる状況を迎えていると感じております。

本県の年齢別人口構成の現状からすると、一定の歯止め策として様々な人口減少抑制策を講じても絶対的な人口減少は避けられませんが、経済規模の縮小を一定程度抑えることができれば、経済的豊かさは保持できるのです。

そのためには、他所からの企業誘致はもちろんですが、県内経済の大宗を占める中小企業の活力増強により生産性を高めるとともに、あらゆる分野での県外への売り込みの強化に加え、観光振興による交流人口の増加を通じた県内消費の増大を図るなど、基本的な経済原則の上に立った政策展開が必要とされます。

このような観点から、多様な資源の活用を根底とした産業・エネルギー政策と農林水産政策は本プランの大きな柱となるものですが、経済だけで幸せな人間社会は築けるものではありません。

高齢化時代を背景とした医療･福祉の充実、ふるさとを支える教育・人づくり、産業活動や県民生活に欠かせない交通体系等の公共基盤の整備、安全・安心な暮らしの根底となる防災体制の確立、豊かな自然環境の保全と有効活用、人口減少社会を見通した協働社会づくりなど、真の幸せや豊かさに結びつく政策にもしっかり取り組んでいかなければなりません。

いずれにしても本プラン推進の主人公は県民であり、県民の皆様の理解と協力、そして主体的な参加と取組があって初めてプランは動くのです。

厳しい現状を打破し、本県の持つ様々な資源を未来の成長･発展につなげるため、私自らが「チーム秋田」の先頭に立ち、「日本に貢献する秋田、自立する秋田」を目指して、県民の皆様とともに全力でチャレンジしてまいります。

そして、こんな秋田を私は創りたい。

そこでは、先人から受け継がれた歴史や伝統が新鮮さを失わずに息づいていて、街角からは子どもたちやお年寄りの元気な声が響き、老いも若きもスポーツや文化活動に勤しみ、農村では日本の食を支える使命に燃えた若者が農作業に精を出し、工場では技術者が新製品の試験に熱心に取り組み、観光地では増え続ける外国人観光客相手に土産物屋のおばさんが片言の英語で応対を・・。

また、秋田には、田舎であればこそ、地方であればこその強みもあります。豊富な山菜はまさに自然の恵み、これをふんだんに食することができるのは大きな贅沢であり、美しい田園風景や郷土色あふれる多彩な文化・芸術は、都会にはない価値を見いだすことができ、隣近所と心を通わせながら潤いのある生活が営めることは都会人にはあこがれに映るのではないでしょうか。

ますます過密化し、ストレス社会化するこれからの都市社会の動向を見据えると、秋田は都市部からの移住者を受け入れる空間として最適なのかもしれません。

広大で豊かな自然空間、文化レベルの高さ、多彩な食文化、高度で多様な産業技術、加えて素朴な中にも教養あふれる県民、まさに我がふるさとに「高質な田舎」を思い描きつつ、経済的な側面だけでは測れない、潤いと真の豊かさを実感できる施策にもバランスよく取り組み、活力ある「ふるさと秋田」の創造に全力を傾けてまいります。

平成２６年３月

秋田県知事

佐竹敬久

目　次

第１章　　プラン策定に当たって
１　策定の趣旨・・・